

長野県内の都市におけるコンパクトシティ概念の適用評価

平成 24 年 2 月 佐藤達也

要旨

目的

近年、多くの都市でコンパクトシティ概念の適用を提唱している。しかし、コンパクトシティ概念の適用の現状を相対的に評価する方法が無いため、都市別におけるコンパクトシティ概念の適用の現状は不明確である。本研究では、一般に入手可能なデータリソースを用いて、長野県内の都市の DID とその DID を含む市町村全体について、コンパクトシティ概念の適用に対する評価方法を提案した。これにより、都市ごとにコンパクトシティ概念の適用に向けて現状で優れている部分や劣っている部分を相対的に把握することができ、今後の都市計画に役立てることができる。

方法

海道清信氏により提案された、「コンパクトシティ 9 つの原則」に則って、その概念の適用に対する評価指標を提案した。具体的に、まず全 14 指標を用いて、DID に対するコンパクトシティ概念の適用評価を行った。指標毎に標準化した数値の平均値をそれぞれの DID のコンパクトシティ度とした。また AHP 一対比較法を用いて、指標にウェイト付けをした場合の評価も試みた。次に、DID の評価結果に基づき、市町村全体における都市機能の集中度を用いて市町村全体の評価を行った。

結果

DID 別の評価では、安曇野市 DID、中野市 DID、長野市 DID(松代)が高い評価を得ており、佐久市 DID(中心部)や上田市 DID(丸子町)は低い評価となった。評価の高い DID は面積が小さい上に、人口や生活利便施設、公共施設、公共交通などの都市機能が集中していた。評価の低い DID は面積が大きく、歪な形をしている上に、DID 内に都市機能自体が少ないといった特徴が見られた。市町村全体の評価では、岡谷市、下諏訪町が高い評価を得ており、佐久市、箕輪町が低い評価となった。評価の高い市町村は、都市機能が DID 内に集中している都市であることがわかった。評価の低い市町村では、都市機能が分散しており、市街地のスプロール化の動きが見られた。

指導教員:藤居良夫准教授